

スーパーデイ・デイサービス ようざんミニ事例集

前頭側頭型認知症の相談ケース 取り戻した笑顔とご夫婦の絆

要旨：A様(女性・要介護度3)

前頭側頭型認知症特有の症状にご家族は悩まされ施設入所も考えた程の中、A様の周辺症状を理解し、情報を個別ケアに活用し対応した結果今では落ち着きを取り戻され家でもデイでも楽しく過ごされています。



A様は前頭側頭型認知症と診断され、この認知症特有の症状がみられました。以前の優しく穏やかな人柄とは考えられないほど険しい表情と暴言暴力・不信・不安・妄想・情緒の不安定・夫に対する猜疑心、入浴拒否、服薬拒否。朝起きぬけに「トイレに行く」と言われパジャマのまま裸足で家を出て徘徊・・・などの行動にご家族は困惑され手におえない状況に一時は施設への入所も検討される程でした。

それでも主介護者であるご主人が「どうしても家で面倒をみたい」「介護をしたい」と言う強い思いからスーパーデイようざん栗崎のご利用が始まりました。

ご利用当初は、朝お迎えに行っても知らないうちに家から出て行ってしまいお連れすることが出来ない事が度々でしたが、ご家族と相談し考慮の末お試しにご家族に送って頂く事で問題を解決しました。次に周辺症状の対応について検討し、試行錯誤を繰り返し、カンファレンスで得た情報から①利用を生活リズムの一部にパターン化する②得意な作業を日課にする③趣味や過去の仕事を生かす④一対一の個別対応⑤信頼関係の構築、これらに基き、統一したケアを根気強く実施しました。

ポイント!

- ◎職員配置が1日5, 6名配置して手厚い為、1対1の個別ケアが実現できる
- ◎認知症に特化したアセスメント行い、その人の背景を全職員が把握しケアに取り入れている。
- ◎利用定員が12名と少なく利用者1人ひとりが役割を持ち主役になれる。
- ◎利用中役割を持って過ごして頂くので、自宅に帰ってぐっすり休めるので家族の介護負担が軽減されます。
- ◎認知症の勉強会を定期的に行い全職員が適切な認知症ケアを行える。

今回の事例はスーパーデイようざん栗崎、佐藤が紹介させて頂きました。



するとA様は徐々に以前の優しさと穏やかさを取り戻し落ち着きが見られるようになりました。当初より入浴を拒否していましたが、ある日個室での足浴にお誘いすると快く応じて下さり「気持ちが良い、ありがとう!」と喜ばれ以降入浴拒否も無くなり、これをきっかけに信頼関係も急速に深まりました。

利用開始2ヶ月目には馴染みの関係が出来上がり「私はようざんで働いているの」と他利用者と話し、得意な作業や趣味を通して豊かな人間関係と笑顔を取り戻され、家に帰られても徘徊が無くなり、ご主人と二人で30分程お散歩を楽しみながら買い物に行くようになりました。

3ヶ月目には、諦めかけていた家族旅行に行くことができました。

4ヶ月目にはご主人とドライブを楽しまれ、ご利用日には決まって「どこどこへ行って来たのよ!」と本当に嬉しそうにその時のお話をして下さいます。その笑顔は、当初の症状からは想像出来ないくらい穏やかで仲睦まじいご夫婦の絆を取り戻された証でした。

今後、ご主人やご家族との連携を図り有意義な生活を送って頂けるようお手伝いをさせて頂きます。